

平成18年度

ひょうごボランティア基金
助成事業報告書

ひょうごボランティアプラザ
(兵庫県社会福祉協議会)

平成19年1月

は し が き

ひょうごボランティアプラザでは、現在、11種類の助成メニューを実施している。このように多岐にわたる資金支援をしている助成団体はあまり例がないと思われるが、法人格を有するNPOが1200を越え、NPO法に定める17分野にわたり年間予算で100万円以下から1億円以上の大小さまざまな団体が活動しているので、個々のニーズに見合ったきめ細かな支援を実施するとなるとメニューの種類が増えるのは避けられない。

このメニューを1件あたりの助成額で区分すると、草の根的なボランティアグループを対象とする小口助成(1件3万円)、NPOの立ち上げやキャパシティビルディングを支援する中規模の助成(1件30万円まで)、行政との協働や中間支援活動を対象とする大口助成(1件100万～200万円)に大別できる。

ところで、ボランティア基金には、これまで助成の成果について1冊にまとめて報告する仕組みがなかった。最近まで、大口の助成は3年次にわたる行政・NPO協働助成だけであったが、協働の相手先である行政の対応が助成継続の決め手になっていたので、改めて広く社会的評価を求める必要がなかったのがその理由である。

また、プラザのミッションは、新しい公を担うボランティア組織の基盤強化にあるので、個別助成事業の成果を、事業終了後、すぐに求めるのは性急に過ぎるという考えもあった。しかし、これだけメニューの幅が広がると、広く県民の評価を求めることが不可欠であると思われる。

そこで前年度から、大口助成について、それぞれの団体に活動報告の提出を依頼して、1冊の報告書にまとめることにした。今回は、さらにインターン助成についても成果を記載している。報告の具体的な内容についてはまだ工夫の余地が残っていると思われるので、忌憚のないご意見を聞かせていただければ幸いである。

平成20年1月

ひょうごボランティアプラザ
所長 小森 星児

目 次

I	ひょうごボランティア基金助成事業について	1
II	平成18年度ひょうごボランティア基金助成事業概要	2
III	平成18年度助成事業 助成金交付団体等一覧	3
IV	助成事業報告	
1	チャレンジ事業助成	
	第2年次	5
	第1年次	11
2	インターン助成	23
3	行政・NPO協働事業助成（NPO提案型 第3年次）	25
4	中間支援活動助成	29
5	企業・NPO協働奨励事業	43
6	県民ボランティア活動助成エントリー受理 及び交付決定一覧表	44
V	ひょうごボランティア基金 過去の助成金交付実績 (平成14・15・16・17年度)	45

ひょうごボランティア基金助成事業について

当基金による助成制度は、21世紀の成熟社会の重要な担い手であるボランティアグループ・団体、NPO等が行う多岐にわたる幅広い分野のボランティア活動の「自立性」と「継続性」を高めることを基本として、活動基盤の強化（キャパシティ・ビルディング）をめざし、県民ボランティア活動の促進を図ることを目的としています。

< 5 つ の 特 徴 >

- 1 助成総額が1億4千万円
- 2 活動対象がNPO法の定める17分野
- 3 活動段階に応じたメニュー設定
- 4 申請(助成)団体にとって使い易い枠組み
- 5 助成制度決定までのプロセスの共有

「ひょうごボランティア基金」は、21世紀の成熟社会の重要な担い手であるボランティアグループ・団体、NPO等が行う福祉、環境、国際交流、芸術等幅広い分野の県民ボランティア活動の促進や、児童福祉施設入所児童及び交通遺児の激励など、地域福祉の向上を図ることを目的として、平成14年4月に創設された基金です。

平成18年度 ひょうごボランティア基金助成事業概要

区分	目的	助成予算額 (執行額)	申請状況・採択率
ボランティアグループ支援	県民ボランティア活動助成	福祉・環境創造、国際交流等NPO法17分野のボランティア活動に助成し、団体の自立支援を促す。 上限3万円(1/2助成) 〔エントリー期間：7月3日～9月8日〕	90,000 (85,020) エントリー数：3,117件 (交付実績 2,834件)
	ボランティア活動支援拠点・NPO協働事業助成	地域のボランティア活動支援拠点とボランティアグループ・NPO法人等の連携・協働を支援し、地域課題の解決を図る。 1事業 30～90万円 〔支援拠点申請期間：5月19日～6月30日〕	4,500 (1,558) 申請件数：3件 採択件数：3件 倍率：1倍
	学生ボランティア活動助成	学生を対象とした入門教室、体験・交流事業、ボランティアセンターの設立準備に係る経費を支援し、学生ボランティア活動の理解と参加の促進を図る。上限 10万円 〔申請期間：6月19日～7月31日〕	500 (484) 申請件数：9件 採択件数：9件 倍率：1倍
NPO法人等の 基盤強化	立ち上げ支援助成	NPO法人等の立ち上げを支援し、NPO活動の促進を図る。 ① インキュベート整備 ② 公共スペース活用 ③ 事務所借り上げ 上限 30万円 (1/2助成) 経過措置 10万円×35件 〔申請期間：6月1日～7月31日〕	8,000 (5,106) (1年次分) 申請件数：5件 採択件数：5件 倍率：1倍 (うち2件採択を辞退)
	チャレンジ事業助成	地域課題の解決のための広域性の高い活動や斬新な活動の拡大、発展を図る。 ① 新規事業 100万円以内 ② 既存事業 50万円以内 〔申請期間：6月1日～7月31日〕	10,500 (7,340) (1年次分) 申請件数：19件 採択件数：6件 倍率：3.2倍
	NPOパワーアップ助成	NPOの活動基盤を強化する。(①ITによる情報公開②定期機関紙の発行③普及啓発事業等) 1項目につき 5万円 〔申請期間：10月1日～12月27日〕	4,600 (4,050) 申請項目：83項目 採択項目：81項目
	インターン助成	団体が行う、国内外での先進事例、現状の調査研究等を支援する。 海外30万円限度 国内15万円限度 〔申請期間：4月3日～6月30日〕	1,000 (300) 1次申請：4件 採択件数：1件 倍率：4倍
行政・企業との協働促進	行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)	行政とNPOの協働推進のため、NPOの企画の事業化を支援する。 1年次(企画) 30万円×15件 〔申請期間：7月3日～8月31日〕 2年次(事業計画) 60万円×9件 3年次(事業実施) 100万円×2件	11,900 (6,950) (1年次分) 申請件数：17件 採択件数：7件 倍率：2.4倍
	行政・NPO協働事業助成(行政提案型)	行政からの提案により、NPOとの協働事業を実施する。 1事業 30万円 (行政提案5件 採択5件 1倍) 〔NPO申請期間：6月19日～7月14日〕	1,500 (1,500) 申請件数：5件 採択件数：5件 倍率：1.0倍
	企業・NPO協働奨励事業助成	企業とNPOの協働を奨励する。 30～50万円(5件以内) 〔申請期間：9月1日～10月31日〕	1,500 (600) 申請件数：5件 採択件数：2件 倍率：2.5倍
中間支援	中間支援活動助成	ネットワーク構築、調査研究、講座等の開催、相談事業等を行うとする中間支援活動のヘルプを図る。 1団体 100万円上限 〔申請期間：6月1日～7月31日〕	6,000 (6,500) 申請件数：14件 採択件数：7件 倍率：2倍
合 計		140,000 (119,408)	

平成18年度助成事業 助成金交付団体等一覧

(単位：千円)

□ ボランティア活動支援拠点・NPO協働事業助成

助成団体名 (ボランティア活動支援拠点協働先)	助成事業名	助成額
1 宍粟市福祉支援ネットワーク連絡会 しそろう作業所・NPOふれあいまつり実行委員会 (宍粟市社会福祉協議会)	しそろうNPO・作業所ふれあいまつり	500
2 エコマネー緑ヶ丘推進会 (三木市社会福祉協議会)	時代にあった地域における共助の仕組みづくり	900
3 備北播磨市民活動支援センター (小野市社会福祉協議会)	北播磨地域自然指導員育成事業	158
合計		1,558

申請件数 3件 採択件数 3件 倍率 1.0倍

□ 学生ボランティア活動助成

助成団体名	助成事業名	助成額
1 ウィズネイチャー	ホッパーズクラブとリーダー研修	50
2 関西福祉大学手話サークル「にじ」	ろう者について知ろう!	50
3 げんきっこ新在家プロジェクト	げんきっこ新在家プロジェクト「セカンドベース」	50
4 神戸学生ユニオン	スクールキッズパートナー派遣事業	50
5 神戸大学学生震災救援隊	大学間「災害救援ネット(仮)」構築事業	100
6 神戸大学総合ボランティアセンター	学生ボランティアの推進と地域社会のニーズへの対応	50
7 神戸大学どんぐりチーム	児童・青少年の発達のための「居場所」づくりのための大学生サポーターの育成	50
8 国際交流・国際協力支援団体 CLUB GEORDIE	GEORDIEセミナー	34
9 だんごの会	次世代ボランティアリーダー育成プロジェクト	50
合計		484

申請件数 9件 採択件数 9件 倍率 1.0倍

□ 立ち上げ支援助成

2年次(17年度採択 家賃助成分)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 備ひといき	事務所家賃助成	150
2 でかけ隊	事務所家賃助成	180
3 備さんびいす	事務所家賃助成	205
4 備福祉市民ネット・川西	事務所家賃助成	274
合計		809

平成17年度(第1年次) 申請件数 10件 採択件数 7件 倍率 1.4倍 うち2件採択を辞退
平成18年度(第2年次) 採択件数 4件 (17年度採択5件のうち1件は17年度中に事業完了)

1年次(18年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 備知恵の和	事務所家賃助成	275
2 備市民サポートセンター明石	事務所家賃助成	280
3 備姫路人権ネットワーク	事務所家賃助成	300
合計		855

申請件数 5件 採択件数 5件 倍率 1.0倍 (うち2件採択を辞退)

□ チャレンジ事業助成

2年次(17年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 備アップストリーム障がい者支援センター	小規模多機能なコミュニティレストランの設立	1,000
2 備市民事務局かわにし	地域における緊急課題/社会的ニーズに“すぐに役立つ”窓口事業 ～JR福知山線列車事故被害者(負傷者)支援窓口とつどい～	1,000
3 備愛逢	現在週3日の配食サービス(夕食)を毎日型(月～土)に拡大する	500
合計		2,500

平成17年度(第1年次) 申請件数 36件 採択件数 5件 倍率 7.2倍
平成18年度(第2年次) 申請件数 3件 採択件数 3件 倍率 1.0倍

1年次(18年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 備サポートセンター木立	障がい者が働く「高齢者向け軽食・喫茶店」の経営	1,000
2 備生涯学習サポート兵庫	子どもの発達よろず相談屋	840
3 備さわやか北摂	地域緊急課題/地域の閉じこもりがち高齢者の外出支援と社会参加を促す事業	1,000
4 備ケアット	障害者の地域就労を支援する“心と身体のケアマネジメント”事業	1,000
5 備ブルービーンズショア	アートに会う移動教室「ブルービーンズスクール」	500
6 備陽だまり	高齢者食事サービス事業	500
合計		4,840

平成18年度(第1年次) 申請件数 19件 採択件数 6件 倍率 3.2倍

□ インターン助成

助成者の所属団体 役職	受入先	助成額
1(特)神戸まちづくり研究所 副理事長	日本太平洋資料ネットワーク(JPRN)	300
申請件数 4件 採択件数 1件 倍率 4.0倍		

□ 行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)

3年次(16年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1(特)環境21の会	環境教育推進事業(実験を重視した子どもの環境教育)	1,000
2(特)国際教育文化交流協会	留学生の参画による国際理解推進事業	1,000
合 計		2,000
平成16年度(第1年次) 申請件数 15件 採択件数 7件 倍率 2.1倍		
平成17年度(第2年次) 採択件数 5件 倍率 3.0倍		
平成18年度(第3年次) 採択件数 2件 倍率 7.5倍 (2件採択を次年度に持ち越し)		

2年次(17年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1(特)たんばぐみ	ボランティアと市民ファンドによる古民家再生事業	600
2(特)宝塚NPOセンター	公共交通へのモダリティを通じた環境配慮生活啓発事業	600
3(特)シンフォニー	阪神なごさ環境「人・自然」交流復活事業	600
4(特)Art Produce & Management Network	こども創造シアターネット	600
5(特)さららの森	猪名川の自然を食べる...自然教育プロジェクト	450
合 計		2,850
平成17年度(第1年次) 申請件数 14件 採択件数 9件 倍率 1.6倍		
平成18年度(第2年次) 採択件数 5件 倍率 2.8倍		

1年次(18年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1(特)いちじま丹波太郎	学校給食への地元産農産物の供給と食育の推進	300
2(特)ウィメンズネット・こうべ	デートDV防止の出前講座開催事業	300
3(特)上野丘さつき家族会	神戸市北区淡河町に「ゾーン・タクシーの運行」を目指して!	300
4(特)生涯学習サポート兵庫	不登校・ひきこもり対象体験活動セミナー	300
5(特)発達障害児療育センターしらゆり	保育所における「発達障害児」への指導・療育を支援する事業	300
6(特)兵庫県技術士会	地域産業振興のための人材育成を目標とした中小企業のデータベース構築事業	300
7(特)Casaメーコッコ	里親里子総合援助事業	300
合 計		2,100
申請件数 17 採択件数 7件 倍率 2.4倍		

□ 行政・NPO協働事業助成(行政提案型)

助成団体名 (行政協働先)	助成事業名 (団体提案事業名)	助成額
1(特)ソーシャル・デザイン・ファンド (県民政策部政策局ビジョン課)	「兵庫コミュニティ指標」(仮称)の作成に向けた検討 ～美しい兵庫指標の新展開～	300
2(特)ウィメンズネット・こうべ (健康生活部少子局児童課)	DV防止・被害者支援活動事業 (DV被害者支援事業)	300
3(特)兵庫セルフセンター (健康生活部福祉局障害者支援課)	障害者の一般就労移行のための実践的モデル事業の実施 (障害者の一般就労移行のための実践的モデル事業)	300
4(特)ひょうご地域防災サポート隊 (県土整備部県土企画局技術企画課)	風水害に対する防災知識の普及・啓発事業 (風水害等に対する防災知識の普及・啓発事業)	300
5(特)ひょうご被害者支援センター (警察本部警務部警務課被害者対策室)	犯罪被害者等への直接支援と支援意識高揚のための広報活動の推進 について	300
合 計		1,500
申請件数 5件 採択件数 5件 倍率 1.0倍 (行政からの提案件数 5件 採択件数 5件 倍率 1倍)		

□ 企業・NPO協働奨励事業

奨励団体名	奨励事業名	奨励額
1(特)コムサロン21	2月2日夫婦感謝の日イベント	300
2(特)生涯学習サポート兵庫	旅行と野外体験の合体 ～野外体験旅行の実施～	300
合 計		600
申請件数 5件 採択件数 2件 倍率 2.5倍		

□ 中間支援活動助成

助成団体名	助成事業名	助成額
1(特)コムサロン21	播磨地域のネットワーク拠点づくり	1,000
2(特)神戸まちづくり研究所	コミュニティ応援隊のためのスキルアップ研修事業	1,000
3(特)宝塚NPOセンター	NPO法人の会計・労務これだけはやろう絶対に!事業	1,000
4(特)コミュニティ・サポートセンター神戸	ひょうご・まちとりの生活アトリエネットワーク	1,000
5(特)市民活動センター神戸	社会的価値を創造するNPOへの経営・起業相談ならびにその社会的共有化の事業	1,000
6(特)シンフォニー	NPO情報リテラシー支援プログラム	1,000
7(特)ひょうごセルフヘルプ支援センター	セルフヘルプグループリーダーによる相談支援体制の整備事業	500
合 計		6,500
申請件数 14件 採択件数 7件 倍率 2.0倍		

採択件数 : 57件	26,896
------------	--------

小規模多機能なコミュニティレストランの設立

特定非営利活動法人 アップストリーム障がい者支援センター

1 団体概要

私達は『障がいがあっても自由に楽しく自分らしく生きたい』を団体のテーマに1999年10月に「障がい者作業所アップストリーム」を尼崎市に設立しました。

2002年6月にはNPO法人格を取得し、2003年4月から兵庫県の指定事業所として障がい児(者)と言われる方々の生活を支援する為にホームヘルパーとガイドヘルパーの派遣を始めました。

現在、アップストリームの介護保険制度による訪問サービスを利用される高齢者も含めると約50名の障がい児(者)や高齢者と言われる方々の生活を支援しています。また移動困難者の社会参加を支援するために福祉車両による移動送迎支援サービスの事業も行っています。

2 助成事業の概要

3年前の団体内の会議「夢・ビジョンセミナー」で地域の人達と障がい者が共に生き生きと働き交流出来る「コミュニティレストラン(以下コミレス)」を作りたいという夢を私達は持ちました。

地域にはさまざまな分野で、素人でありながらプロ顔負けの技術や情報をもった「達人」と呼ぶに相応しい人材がたくさんいます。彼らは貴重な街の財産であり、その能力を地域のために生かしていくことで、より豊かな地域社会が実現します。そんな「達人市民」たちに「ワンデイシェフ」という形で自己実現の場を提供し、得意な能力を持ち寄って運営する「コミレス」を地域作りの拠点にしていきたいと考えました。

また、このコミレスを障がい者作業所が運営することによって、レストランのホール係を知的障がい者が務め、地域の人たちと障がい者の交流する機会を増やすことができます。

「ひと・モノ・金」がすべての事業には必要ですが、突き詰めて考えれば全ての事業は「ひと」次第です。そのために、今回のチャレンジ事業の初年度の助成金の多くは、アップストリームの内部の人材育成の費用として使わせてもらいました。

2006年の1月初め～3月末に掛けて6回(48時間)のワークショップ講座を開催し、フアシリテーショングラフィック等のさまざまな地域課題の解決手法を私達は学び、内部の会議にも活用しています。

『夢と笑顔を育て合う 出会いの「ぶらっと☆ほ～む」』というコミレスのコンセプトは6回のワークショップから生まれてきました。2006年1月下旬にはダイエー撤退後の出屋敷リベル地下1階で5日間の市民活動カフェをアンテナショップで開店し経験を積み、2006年2月にはこのワンデイシェフシステム導入の要であるコーディネーター養成講座(1泊2日)に2名のスタッフを四日市のコミレス「らいふ」に送り、1名は養成講座の後も4日間の実習を受け開店に備えました。

その後、二年度のチャレンジ助成を受けて、2006年7月にコミレスの講座を開催し登録シェフの募集を行いました。また、2006年7月と11月にスタッフや登録シェフの四日市のコミレスの現地見学会を開催しました。そして、2006年12月1日にコミュニティレストラン「みるくゆ」を尼崎市杭瀬北新町で開店しました。

3 助成金の使途

チャレンジ事業の助成金100万円は、店舗を借りる為の保証金、家賃、内装設備費等として使った600万円のうちの一部、人件費等として使用しました。

4 助成事業のアピールポイント



事業を実施するにあたって苦勞した事は、「資金集め」でした。チャレンジ事業だけでなく、県のCB創出支援事業の補助金や「木口ひょうご地域振興財団」の助成金も頂きましたが、不足分はアップストリームの理事達からの借入金で始める事ができました。

事業をして良かった事は、これまで障がい者との関わりのなかったシェフさんや地域の人達とも、このレストランを通して知合いになれて、支援の輪が広がった事です。

5 今後の事業計画

今後の事業計画としては、一人でも多くの「登録ワンデイシェフ」を増やしていき、この「コミレス みるくゆ」でお得意の料理の腕をふるって頂くことの他に、この場所を利用して地域の人達に「絵てがみ教室」「料理教室」などを始めていただけるようにしたいと思っています。

独立共歩 ワンデイシェフレストラン・・・みるくゆ (神戸新聞 2007年1月3日)

障害者の社会参加応援

「ワンデイシェフシステムっていう制度があるんですよ」初めて聞く言葉だった。

「料理が得意な主婦やOLが、日替わりでお店のシェフになるんです」伊丹市で行われたまちづくりのワークショップ。松岡孝司さん(52)は、講師の説明に思わず身を乗り出した。

NPO法人「アップストリーム障がい者支援センター」(尼崎市)の事務局長を務める松岡さんには、「レストランを中心とした障害者作業所の開設」というアイデアがあった。

「スタッフが料理に力を入れれば介助がおろそかになる」。そうした懸念も、このシステムなら解決できるような予感がした。スタッフは介助に専念し、満足できる料理でお客さんも喜ぶ。「パズルがピタッとはまった」

「できたよー」。日替わりで厨房に入る『本日のシェフ』が、手際よくコロッケを揚げている。

ワークショップから一年四カ月。尼崎市杭瀬北新町の商店街の外れに先月、ワンデイシェフシステムを取り入れたコミュニティレストラン「みるくゆ」がオープンした。テーブル席が四つだけの小さな店だ。

ランチは八百円。手打ちそば、カツライス、ウナギの柳川風…。将来、自分たちの店を持つことを夢見る夫婦や、子育てを終えた主婦ら「日替わりシェフ」の自慢料理が登場する。料理を運ぶのは、二階の福祉作業所に通う障害者たちだ。

仕掛け人の松岡さんは喫茶店の元オーナー。「人に使われるのは嫌」と脱サラし、三十一歳のとき同市内で店を始めた。評判も上々だったが、一緒に切り盛りしていた妻佐和子さん(51)の持病が悪化し、四年で店を閉めることに。その後、障害者作業所を立ち上げる知人を手伝い、福祉の世界へと飛び込んだ。



直後に起きた阪神・淡路大震災では、障害者の置かれる厳しい環境をいきなり目の当たりにした。炊き出しボランティアとして訪れた市内の避難所。そこで出会った全盲の高齢者や知的障害者は、別の避難所で弁当や水が回ってこず、保護されてきた人たちだった。

「同じ地震に見舞われた被災者なのに、避難所なのに、強い人と弱い人に分けられなければならないのだから」憤り、疑問が胸の奥で膨らんでいった。

ランチタイムの「みるくゆ」。料理を受け取った山田満由美さん(19)は、ゆっくりとお客さんが待つテーブルへ運ぶ。「ごゆっくりどうぞ」。ぺこりとお辞儀をする。

「恥ずかしいけど、いろんな人が来るから楽しい」と山田さん。作業所のメンバーは金沢一樹さん(19)と二人だけだが、春には新しい仲間も加わる。「お店をやりたい」というシェフ希望者も増えている。

さまざまな人が集い、みるくゆは成り立つ。社会も同じ。

「理解し合うには、触れ合う場や機会をつくり出すこと」と松岡さん。ワンデイシェフシステムがその手掛かりになると信じている。

特定非営利活動法人アップストリーム障がい者支援センター 理事長 本村 晃一

〒660-0814 尼崎市杭瀬本町1丁目23-2 カーサフジイ 102号・TEL06-6483-4588 FAX06-6483-4587

e-mail:upst@nifty.com ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/upst/>

地域における緊急課題・社会的ニーズに“すぐに役立つ”窓口事業

～JR 福知山線列車事故 被害者(負傷者)支援 窓口とつどい～

特定非営利活動法人 市民事務局かわにし

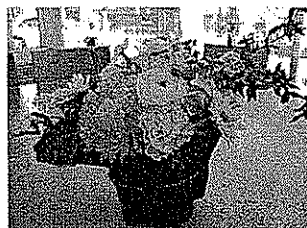
1 団体概要

川西市に拠点を置く『中間支援』NPO 法人で、各 NPO や市民活動グループの運営上の相談、活動立上げの支援、必要とされる講座の企画や実施、つながりを創る交流会開催や、情報の収集と発信など、各団体の活動を円滑に進め活発にするための『裏方』の仕事をしています。また、市民・行政・企業などとの協働やその際の『架け橋』の仕事もしています。

2 助成事業の概要

平成 17 年 4 月 25 日に起こった JR 福知山線列車事故の被害者（主に負傷者）とその家族の心身の回復には、当事者間のつながりと情報交換の場が不可欠と考え、平成 17 年 5 月より、情報相談の常設「支援窓口」の開設と、被害者（主に負傷者）とその家族の「語りあい、分かちあいのつどい」（交流の場）の実施を、継続的に行いました。

- 常設「支援窓口」の継続と「市民活動サポート相談」の拡充（H18 年 4 月～H19 年 3 月）
 - ・ 月～土：午前 10 時～午後 4 時（日祝休み） 開設 287 日
 - ・ 「支援窓口」 相談電話件数 1263 件、来所件数 338 件
 - ・ 事故での負傷者数 562 名中 約 110 名（件数）のアクセスと情報提供
 - ・ 「市民活動サポート相談」 332 件（月平均 27.6 件）（参考 H17 年度：月平均 14.3 件）
- 被害者（主に負傷者）とその家族の「語りあい、分かちあいのつどい」（交流の場）の定期的な実施
 - ・ 第 8 回～第 17 回まで 10 回開催 ⇒ 参加者合計 161 名（総参加者数 436 名）
- 専門家によるタイムリーな支援のコーディネート
 - ・ 臨床心理士、保健師、精神科医、弁護士などとの連携の構築
 - ・ 「トラウマ回復プログラム講座」をはじめとする様々なプログラムの運営
- ホームページ・ブログによる公共性アップとタイムリーな情報提供
 - ・ 電話や来所しづらい負傷者が 24 時間情報入手できる場として効果アップ
 - ・ H18 年 4 月～H19 年 3 月末までのホームページ 総アクセス数 約 4,000 件
 - ・ H18 年 4 月～H19 年 3 月末までのブログ 総アクセス数 約 60,000 件
- 負傷者とその家族の自助的で自発的な活動への支援
 - ・ メールマガジン（Lean on Me）発行
 - ・ 事故後 1 年のメモリアル取組み
 - ・ シンポジウム「JR 福知山線列車事故を考える」の開催
 - ・ JR 羽越線事故被害者へ送る白い千羽鶴やタペストリー作成
 - ・ 負傷者とその家族有志による手記集「JR 福知山線脱線事故 あの日を忘れない」出版（神戸新聞総合出版センター刊）
 - ・ 事故後 2 年のメモリアル取組み準備 など



3 助成事業のアピールポイント

心のケアという緊急的、かつ、社会的なニーズに対して、公的機関が柔軟で長期的な支援を続けていくのが困難な中、事故直後より、NPO や公的機関、専門家など、多くの団体・個人と連携して、迅速で具体的な支援活動を継続してきました。

- 結果、大事故後に被害者（負傷者）支援と同時にプラットフォーム機能も果たす活動取組みは、かつて例を見ないと評価されました。
- さらに、常設の情報相談「支援窓口」は、この事故後の支援にとどまらず、設置が認知されるにつれ、市民の多様な地域課題の相談窓口となり、文字通り地域に根ざした「総合情報相談窓口」として機能するようになりました。

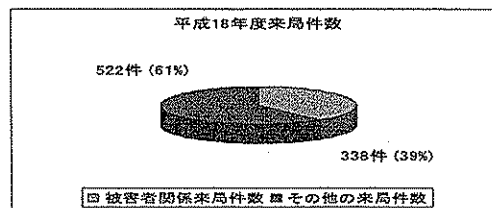
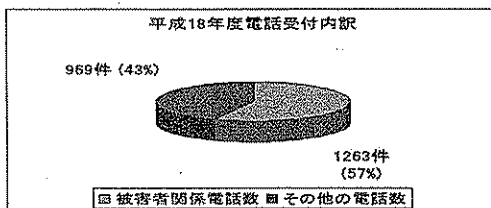
4 助成金の活用状況

《助成金の使途》（H18年4月～H19年3月）

- 常設「支援窓口」対応人件費と交通費
- 交流の場の「語りあい、分かちあいのつどい」運営支援スタッフ（負傷者とその家族などをサポートする臨床心理士・弁護士・ボランティア等）の交通費
- 電話代など通信費、ホームページ・ブログ管理費

《助成金を受けて良かったこと》

- チャレンジ事業助成は人件費が認められていたため、定点的かつ継続的な「支援窓口」の開設が可能になりました。
- また、事故後1年以上経過してもなお「支援窓口」に直接相談に来ることができない方が多い状況下で、電話・インターネットによる相談や情報提供は非常に有効で、その情報媒体にかかる経費が管理費の中で認められていたことは、事業を進める上で大変助かりました。
- 被害者および多くの支援者・支援団体やメディアとのつなぎ役を務めたり下支えをしたりする中で、スタッフの相談対応能力、コーディネーション能力、ファシリテーション能力、事務処理能力や事務局代行能力などが向上しました。



被害者支援関連電話数と来局者数の対比から、常設「支援窓口」の効果が読み取れる。

5 今後の事業展開の方向

- JR福知山線列車事故の被害者（主に負傷者とその家族など）を対象とした「支援窓口」の継続と「つどい」の定期的な開催と同時に、多様な課題に対応する「市民活動サポート相談」の拡充、また、緊急時における「地域の総合情報窓口」としての機能充実を計ります。
- 負傷者やその家族の「つどい」の場から生まれ、被害者自身が築きつつある自助的で自発的な活動や、事故後にできた「コミュニティ」、また、大きな意味での市民や市民活動グループ、社会とのつながりの場でもある「プラットフォーム」への持続的な支援をしていきます。
- この「コミュニティ」や「プラットフォーム」の存在が、この事故による被害者の孤立、また、事故の風化を防ぎ、真の安全・安心を目指す新しい「市民社会」形成への礎となることを信じ、継続活動してまいります。

代表者 理事長 久 隆浩 〒666-0137 川西市湯山台 2-34-21

TEL&FAX 072-774-7333

e-mail jimkawanishi@jttk.zaq.ne.jp

hp <http://www.npojmkawanishi.org>

blog <http://www.voluntary.jp/jkawanishi/>

現在週3日の配食サービス（夕食）を毎日型（月～土）に拡大する

特定非営利活動法人 愛逢

1 団体の概要

10年間の暮らしの助け合い活動を経て、2004年4月NPO法人を取得。現在尼崎市東部を活動エリアにして地域に根ざした活動を展開しています。

<会員数> 192名（正会員43名・賛助会員148名）

< 活動・事業内容 >

- (1) 家事援助、子育て支援、配食サービス、移送サービスなどの助け合い活動
- (2) 介護保険 訪問介護、居宅介護支援事業
- (3) 障害者自立支援事業
- (4) 医療・福祉に係わる教育研修事業

2 助成事業の概要

—背景と目的—

配食サービスは、「暮らしの助け合い」の会から引き継いで今年で12年目、週2回から始めて、1年後に3回まで増やしたものの毎日型に移行できないまま、2004年任意団体から法人格を取得した。NPO法人になって2年目の2005年チャレンジ助成を受けて、9月より毎日型（月～土）配食サービスが実現した。

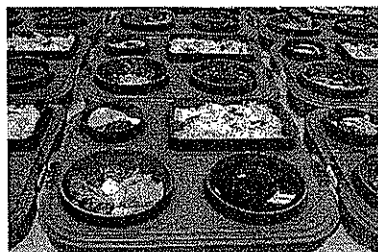
—具体的な内容—

冷凍食品や添加物を使用せず、毎日食べても飽きない家庭的な料理を保温容器に詰めて温かい夕食をお届けする。これが「愛逢弁当」です。（利用者の皆さんからこうように呼ばれている）

利用者さんは、現在70名（毎日の方、週3回の方、2回の方など、日々個数が変わります。）

配食を支えるメンバーは、責任者、パート2名、交通費程度の有償ボランティア15名、配達ボランティア15名の総勢 33名で日替わりで6日間を廻している。

年度	日平均食数
2005年	35食
2006年	42食
2007年	53食(9月現在)



3 助成事業のアピールポイント

毎日型にしたことによって、利用者の皆さんが曜日を選べるようになったことや、不慮の事態に曜日を気にせず配食サービスが受けられるという安心感などで予想以上の反響があった。また、法人としては、配食サービスが50食を超えたことで、採算ベースにのり

継続の礎ができたことは、助成を受けたことの大きな成果です。

—ある事例から—

15年前より地域の中で暮らしておられる身寄りのない独居のAさん（女性・92歳・退院後介護度5）が2006年4月、膝の痛みで立てなくなって3ヶ月入院。寝たきりになられる。本人のたつての希望で8月より在宅療養が始まった。

Aさんを地域で支えるために介護保険を目いっぱい使い、地域にある、あらゆる社会資源（助け合い、近隣の方々、配食など）を利用して、24時間体制の支援が始まった。

1年が経過して思うことは、毎日型の配食サービス（昼食は福祉施設デイサービスの配食・夕食は愛逢の配食）が、この地域にあったおかげで、支えられたと思っている。

介護度5といえどもサービス時間、内容はおのずと限界がある。高齢者の在宅を支える基本は「食」の問題といっても過言ではないと実感すると共にあらためて、配食サービスの意義を痛感した。

4. 助成金の活用状況

★平成17年度 食器洗浄器・調理パート1名雇用の給与の一部にあてる。

★平成18年度 保温弁当箱購入

5. 今後に向けて

この2年間、何とか採算ベースに乗せたいと1日の食数を増やす努力をしたかいあって、目標数に達してきた。ホッとしたのもつかの間、2006年、年度末の頃より、活動エリア外の居宅介護支援事業所や包括支援センターからの依頼が増えてきた。曜日によっては現在60個を超えることもある。

55個を超えると、厨房での弁当詰めの問題、配達ボランティアのマンパワーの問題など愛逢の許容範囲を超えてしまう。このまま要望に答えて作り続けていいのだろうか・・・。

「愛逢」が目指している配食サービスは、温かくておいしい食事をしていただくことで、利用者さんの健康維持はもちろんのことプラスアルファの部分、配達時の高齢者の安否確認や地域の担い手を育てる活動場所の提供など、数を増やすことでプラスアルファの部分がおおざりになりかねない。それでは「愛逢弁当」の意義が薄れてしまう。

病院から在宅への流れの中、理想は小学校区に一つ配食サービスグループが出来ること。このような思いと愛逢の配食サービスの現場を見ていただき、尼崎市の9月議会で今後の配食サービスのあり方について提言していただいた。

“地域住民は地域で守る” NPO法人愛逢の地域活動理念です。



所在地：尼崎市小中島1丁目20-21

代表者：理事長 坂本 敬子

連絡先：TEL 06-6493-1424

FAX 06-6493-1443

URL：<http://www6.ocn.ne.jp/~ai2006/>

Eメール：npoai2004@tiara.ocn.ne.jp

障がい者が働く「高齢者向け軽食・喫茶店」の経営

～軽食・喫茶の木立～

特定非営利活動法人 サポートセンター木立

1 団体概要

任意団体として、平成16年4月加古川市に於いて4番目の精神障害者小規模作業所を開所し、障がい者の居場所づくりと社会参画を目標として、高齢者を対象に、手作り弁当の調理・宅配を行ってきた。団体等からまとまった注文もあり、活動を通じて地域からの理解を得ることも出来、障がいをもちながらも人の為に貢献できる喜びを持ち、就労の意欲が増している。平成18年3月NPO法人の認証を受けた。

2 助成事業の概要

自立支援法の制定があり、小規模作業所の将来に不安を感じたが、「ピンチはチャンス!」と捉え、精神障がい者のために加古川にもう一つ小規模作業所を作ろうと決意した。

兵庫県「コミュニティ・ビジネス創出・育成支援事業」の認定を受ける事が決定し、具体的に店舗の確保から始まり、工事・備品の見積りと進めるうちに、かなりの資金の必要性を感じ、当助成事業に応募した。JR加古川駅の近くにある寺家町商店街に平成18年10月に第二作業所として「軽食・喫茶の木立」をオープンした。



3 助成事業のアピールポイント

良かったこと

- ・ 温かい食事やイベントの開催などで高齢者を誘致し、障がい者の働く場と高齢者の憩いの場とのマッチングを図りノーマライゼーションの交流の場をつくる事が出来た。
- ・ 高齢化が進む中で、介護を必要としないで元気な老後を過ごしていただくために、外に出かけるチャンスを作り、対話と交流の場でストレスの解消が出来た。
- ・ 自らの病気で閉鎖的な日々を送っていた障がい者（12名）が通所している。人のため、社会のために貢献することにより、自信を持って社会性を養う機会となった。
- ・ 地元の商店街の理解を得ることが出来、商店街の一店舗として全ての行事に参加できた。隣の連合町内会で支援しようとの声が出てチラシを全戸配布していただく。等々多くの方の温かい理解と支援に支えられて障害者小規模作業所として認証していただくことができた。

苦労したこと

- ・ 予定以上の通所希望者があり（嬉しい事です）、工賃・仕事の分担に苦慮した。
- ・ 高齢者にとって暑さ・寒さが厳しいと外出が難しく、顧客数が極端に減少する。

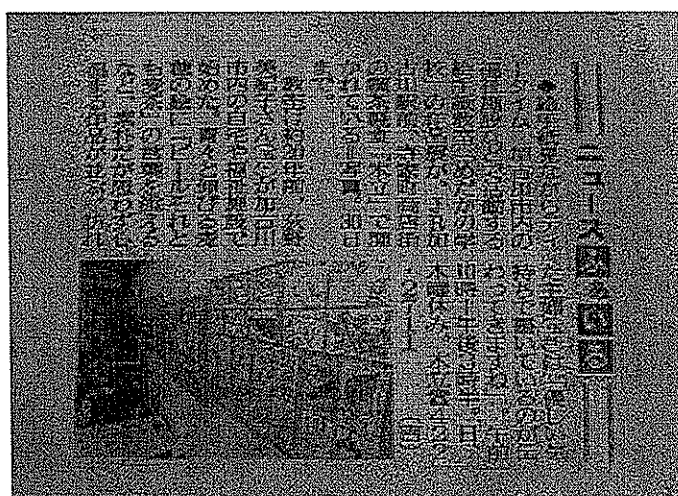
- ・ 指導員が少なく、ボランティアに頼ることが多かった。
- ・ 助成金の申請から事業報告までの、事務処理が大変だった。(当然とは思いますが)

4 助成金の活用状況

開店準備に予想以上の資金が必要になり、特に店舗改装費・備品をはじめ什器・消耗品に多額の費用がかかりました。当助成金で、店舗40席のテーブル・椅子の購入資金として、又、通信費・材料費・イベント費用・障害者の工賃等の一部に使用いたしました。

他の補助金では対象経費が限られています。広い範囲で対象経費が認められている当助成金に助けていただきました。沢山の機関と多くの方に支援をいただき、無事2年時を迎えることが出来ました。感謝の思いでいっぱいです。

顧客数(10月~3月)			
	営業日数	顧客数	1日平均顧客数
10月	18	531	29
11月	25	691	27
12月	24	598	24
1月	19	474	24
2月	21	636	30
3月	22	652	29
合計	129	3582	27



5 今後の事業計画

- ・ はじめの計画では2年次にパンケーキ製造を予定していたが、健康福祉事務所の指導で、建物がパン工房には向かないとのことで、中止しました。
- ・ 高齢化社会において、高齢者の憩いの場として更に多くの方に知っていただき温かい食事の提供をし、高齢者の食事の改善をすることで、地域に貢献したい。
- ・ 地域の活性化を目的に、地域のコミュニティー広場として毎月イベントを開催し、特に高齢者、障がい者の交流を通し障がい者に対する偏見を積極的になくしていきたい。
- ・ 障がい者の社会参画と自立をめざし、通所者の工賃アップのために第一作業所のノウハウを活用しH19年11月から、主に高齢者対象に弁当の調理・宅配を始める。

代表者 理事長 難波 勉

〒675-0053 加古川市米田町船頭 514 番地 24

TEL・FAX 079-431-3288

E-mail: nrd25362@nifty.com

子どもの発達よろず相談屋

特定非営利活動法人 生涯学習サポート兵庫

1 団体概要

■特定非営利活動に係わる事業

1. 社会教育の推進を図る活動
2. 子どもの健全育成を図る活動
3. 文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動
4. 環境の保全を図る活動

■事業内容

1. 地域団体への活動支援の為の委託事業

子ども会・地域スポーツクラブ・婦人会・老人会等の地域団体、保育園・幼稚園・小中学校・各市町の公民館等の公共団体、スポーツクラブ・塾・企業などの行事の委託運営を行う。

2. 地域団体イベントへの出張指導事業

上記団体の主催行事で、講師として指導を行う。

3. 機関紙などを使った、生涯学習の普及事業

会員の方にはもちろん、各種地域団体などに向けて機関紙やメールマガジン、ホームページなどの媒体を通して、生涯学習・社会教育の普及を行う。

4. 青少年指導者の養成、及び研修に関する事業

未来の指導者を養成することを目的とし、小中学生の定例活動クラブ『こそあどクラブ』、18歳以上の『リーダーサークル』を運営する。

2 助成事業の概要

言語聴覚士による相談会から始まり、様々な子どもの発達問題に対応できる講師による相談会を実施。特に小学生対象には大学教授であり社会福祉士でもある藤本次郎氏を講師に招き、ルール制のある親子ゲームや指先を使うあそびを取り混ぜたプログラムを実施し、様子を観察。その後、親と子別々の部屋に分かれ、保護者向けに相談会を実施。普段の家や学校での生活の中での不安などが挙げられ、参加者同士悩みを共有できる場に。相談会後も藤本氏・榎本に個別に相談を持ちかける場面もみられる。

就学前の親子に対しては、大学教授である勝木洋子氏を子育てアドバイザーとして招き、親子あそびのプログラムと、親と講師による相談会を実施。親同士共感、講師の話に納得する場面も多々見られた。

受付・広報・プログラム補助、待ち時間の子どものケアなどを当団体スタッフが担当し、スタッフ自身も学ぶことができ、既存事業にも広がりが見られた。

3 助成事業のアピールポイント・良かったこと・苦労したこと

■アピールポイント

- ・相談窓口になることで、専門機関にはなかなか足が進まなかったという親も気軽に参加できている。また、子どもにとっては、「あそび」を通して社会的なルールを学

ぶきっかけにもなっている。

- ・趣旨に賛同して下さった地元タウン誌紙面による毎月の相談会の広報とともに、専門講師によるコメント欄を記載してもらえるようになり、今まで相談の「入り口」の部分に立ち入ることの出来なかった人も参加しやすい環境ができています。

- 良かったこと：相談会を越えて親同士のつながりができ、相談会の後も子育ての悩みを打ち明け合う様子が見られた。
- 苦勞したこと：アドバイザーが、子どもの様子から個々の発達の状態を初対面で観察できる、あそびのプログラムの企画・実施。

4 助成金の活用状況

- コンサルタント料：「コムサロン21」にホームページでの広告・宣伝、サテライトに事業パンフレットの設置等中間支援をいただいた。
- 関係図書購入費：発達障害に関わる図書の購入により、スタッフがスキルアップすることができている。
- 備品購入費：室内用ジョイントマットの購入により、安全にかつスムーズにプログラムを提供できている。
- その他スタッフ人件費・広告宣伝費など

5 今後の事業計画

- 当団体スタッフの技術と講師による専門性を生かし、今クローズアップされている問題や気になるキーワードを取り入れた親子プログラムを相談事業と並行して実施する。
- 今まで各相談に踏み込めなかった親子が参加しやすい環境をつくり、最低限の知識や個々へ対応をし、次につなげるルートを紹介する。
- この相談事業を親と子の相談の「入り口」と捉え、教育委員会などとも連携を取り親・教師の理解を得るとともに、正しい対応について学べる場にもしていきたいと考える。



アドバイザー・当団体講師による発達相談会



当団体の講師による親子体操

特定非営利活動法人 生涯学習サポート兵庫 理事長 山崎 清治

〒672-8088 兵庫県姫路市英賀西町 2-15-2

〔Tel〕 079-230-0661

〔Fax〕 079-230-0662

〔E-mail〕 shosapo@iwish.jp

〔URL〕 <http://shosapo.iwish.jp>

地域緊急課題/

地域の閉じこもりがちな高齢者の外出支援と社会参加を促す事業

特定非営利活動法人 さわやか北摂

1 団体概要

高齢者のたすけあい活動の草分けとして1995年に“さわやかサービス北摂”を設立。NPO法人化の後、高齢化率30%のグリーンハイツ地区での“高齢者の安心拠点”を目指し、2001年からは訪問介護事業を、2002年には誰でも立ち寄れるミニデイサービスを、2003年から2004年にかけて、障害児者居宅介護事業を開業。昨年2006年4月からは、居宅介護支援事業と介護予防事業（訪問介護及び通所介護）を開始するに至っております。

さわやか北摂では、“困った時はお互いさま”の精神で、たすけあい活動で公的サービスの不足分を補いながら、高齢者や障害児者の方に包括的な支援サービスをご提供していきます。

・1995年 7月	さわやかサービス北摂 を設立
・2000年 8月 1日	特定非営利活動法人 さわやか北摂 を設立
・2001年 3月 1日	介護保険・訪問介護事業 を開始
・2002年 8月 1日	介護保険・通所介護事業 を開始
・2002年 5月 1日	支援費・身体障害者居宅介護事業 を開始
・2003年 11月 1日	支援費・児童（障害児）居宅介護事業 を開始
・2004年 8月 1日	支援費・知的障害者居宅介護事業 を開始
・2006年 4月 1日	介護保険・居宅介護支援事業 を開始
・2006年 4月 1日	介護保険・介護予防事業（訪問介護と通所介護）を開始

2 助成事業の概要

〈実施時期〉 平成18年9月から平成19年3月

〈実施場所〉 さわやか北摂もしくは自治会館

〈実施内容〉 ①自治会、民生委員、他の地域コミュニティに個別に本事業の主旨を説明し、連携と協働を依頼

②閉じこもりがちな高齢者を見つけ出す手法を打合せ

③チラシを作成

④地区別にチラシをポスティング

⑤希望によりお弁当を配達

⑥デイサービスに体験見学にきていただき、レクリエーションや昼食を楽しんでいただく併行して住宅改修（階段昇降機移設工事・駐車場前の歩道切下げ工事・トイレ内手すり取付）を実施

3 助成事業のアピールポイント

本事業は、地域コミュニティとの連携と協働が重要な要素となりますが、自治会、地区福祉委員会、コミュニティ推進協議会他、多くの団体が地域福祉に関わっており、本事業の主旨を理解していただくことに予想以上に根気と時間がかかりましたが、多くの地域団体とその所属メンバーの方とお話しをすることができ、徐々に理解をいただき、本事業の輪が広がりつつあります。その結果、外出へのきっかけづくりにつながる「配食」については、6の方が希望され、9月から3月で合計250食の実績となりました。また、本人やご家族から「チラシを見たので」との問い合わせも増え、「相談できるところが見つかって良かった」との声をお聞きしたり、実際にデイサービスに見学に来られて、昼食を食べられた方もあり、外出のきっかけづくりに微力ながらお役にたったのではないかと確信しております。

・ 当グリーンハイツ地区の閉じこもり高齢者数は、約500人（高齢者全体の約

10%)と推定されますが、当初の目標では、平成18年3月末までに約50人を外に連れ出す計画でしたが、実績で49人を外に連れ出すことができ、ほぼ目標値はクリアできたと思います。

4 助成金の活用状況

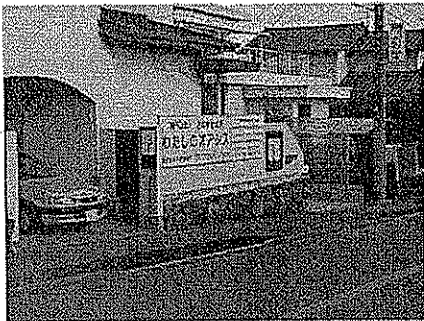
支出内容			実績金額
直接経費	外注加工費	階段昇降機移設工事	191,100
		デイサービス・駐車場歩道切下工事	158,235
		デイサービス・トイレ手すり取付	33,201
	買入部品費	配食用お弁当容器(汁椀付)	89,000
	人件費	事業担当者、調理員、配食員、他	859,540
間接経費	一般管理費	広告宣伝費、通信費、他	221,395
※ 事業支出合計			1,552,471
※ 自己資金、他			-552,471
※ チャレンジ事業助成金支出			1,000,000

5 今後の事業計画

- 配食で、6人の方の申し込みを得られたこと、9月から3月の合計で250食の実績となったこと、当初50人の目標に対し、実績で49人を外に連れ出すことができたことは一応の成果ではありますが、配食を希望された6人の方やデイサービスを見学された49人の方には、比較的重くない閉じこもりの方も含まれており、その意味では、チラシ作戦以外にも連れ出し手法を考え、手を打つ必要があると思っております。
- 例えば、悠々シニア夢クラブ(老人会)で話が出た、休眠会員をターゲットとしたアクションとかも考えていくべきだと思っております。
- 平成19年度は、数はもとより質の面でも成果があらわれるように、引き続き、地域コミュニティと連携、協働して、閉じこもり解消に向け注力いたします。

〈平成19年度施策〉

- ①地域コミュニティ及びその構成メンバーとのさらなる連携と協働
→もっと輪をひろげる
- ②重度の閉じこもり高齢者に対する的確な連れ出し手法の検討
- ③自治会各種クラブの休眠会員の洗い出しとその方への働きかけ
- ④チラシ内容の見直し(チラシ第2弾として、お弁当メニューの他、お弁当のカラー写真やデイサービスの行事写真も掲載した、より目に止まり、興味をもっていただけるようなチラシを検討、作成する)
- ⑤チラシ作戦の継続



代表理事 久恒 千里
〒666-0116 兵庫県川西市水明台1丁目3番地の2
TEL・FAX 072-792-3532

障害者の地域就労を支援する 「心と身体のケアマネジメント」事業

特定非営利活動法人 ケアット

1 団体概要

高齢者や障がい者をもつ方々が、真に自立した日常生活を営み、かつ、積極的に社会参加するためには、地域の住民が参加する市民活動として、介護保険または支援費制度の枠外の活動を推進する必要があると考え、人間性あふれ魅力ある社会福祉の創造に寄与するため、平成17年2月に設立しました。

2 助成事業の概要

障がい者やその家族の方が地域でよりよく暮らしていくために、「相談活動」「音楽療法」「お笑い療法」「足底反射区療法」を行ってまいりました。

(1) 相談活動

地域の施設や作業所などに通われず、在宅生活を送られている地域の障がい者の方が、所属機関に配布したチラシを見たり中間支援団体等の紹介で相談に来られました。

利用された方としては、障害幼児の保護者・サークル、精神障害者・知的障害者・身体障害者と多様な方の相談がありました。幼児期の保護者からは「関わり方」「進路」「レスパイト的支援」など現状の問題への相談が聞かれました。成人の方からは、「家にいることが多く、家以外に行き場がない」「家にいても何もせずに過ごしている。できれば

仕事をし収入を得たい」と外に出て何かをしたいという前向きな言葉が聞かれ、障がい者が、現状から抜け出し、自立した生活をした生活を送りたいという強く感じられました。

しかし、友人も少なく「どこに行ってもいいのかわからない」。就労したいが、「不安が強く踏み出せない」「面接に行っても雇ってく

れる事業所が少ない」等の理由で在宅生活になってしまう傾向が見られました。

メンタルな部分はもちろんスキルの部分でも不安が大きいです。

以上のような声を聞き、平成19年7月から東灘区に事務所を開き、障がい者を雇用すると共にスキルアップのためのパソコン教室を開催するとともに、「ケアット わくわくらぶ」として、障がい者だけではなく「地域の集いの場」としても開放しています。



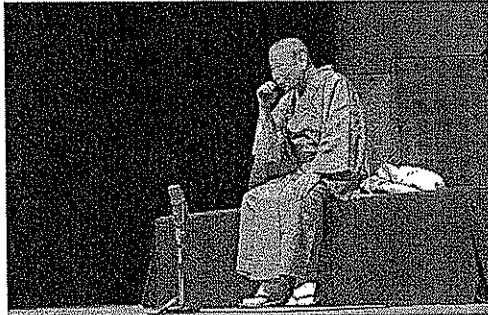
知的障がいのある方が、マンションの空き部屋のお掃除をしました。3時間かかりましたが最後に頂いたお茶がおいしかったこと。



ケアット わくわくらぶ

就労のためだけではなく障がい者の「仲間作り」「余暇活動」「地域との交流」の場にしていきたいと考えています。

(3) お笑い療法



＝障がい者とともに集う＝
障がい者が暮らしやすい地域にするためには、まず障害を知る事からはじめたいと考え落語会を開催しました。

「笑う門には健康来たる」と題して、3月16日東灘区「うはらホール」で、露の五郎兵衛氏の講演会と落語会を行いました。講演会では師匠が脳卒中を乗り越えてこたれた経験談を面白おかしくお話しくささいました。落語は露の一門による3題のお噺をされ450名を越えるお客さんも「楽しい2時間を過ごすことができた」と好評でした。障がい者や高齢者、そして地域の方々が触れ合う機会として、今回落語会を企画しましたが、アンケートの結果9割の方に満足していただくことができました。しかし参加者の中には「こんなに障がい者が多いなら障がい者だけ呼んだらよい」とか、車椅子の方に優先座席をもうけたり、障がいのある方を優先的に誘導したりするボランティアにクレームをつける方もおられました。

大きなトラブルもなく、無事に落語会が終えられましたのも多方面のボランティア団体や善意でお手伝いして下さった方々のおかげと感謝し、この地域ボランティアのネットワークを今後も大切にしたいと思います。

そして、障がい者が地域のなかで暮らしやすくなるように、今後も障害、年齢などを越えてみんなで触れ合機会を提供してまいりたいと考えています。



作業所で音楽療法
障がいのある方と父兄を
対象に参加型の音楽会を
開催。兵庫県認定音楽療法
士が素敵な音色を添えます

(3) ケアットの活動の一つとして、障がい者宅への個別訪問の音楽療法を続けております。ある精神障害者の男性はどんどん上達し、そろそろレッスンに通えるようになる程、自信を持ってくれるようになりました。

身体障害の女性は不自由な体で精一杯リズムをとります。訪問して音楽にふれた日は夜、安心してお休みになっているとの事です。

〒658-0082
神戸市東灘区魚崎北町 2-6-14 ルパレ魚崎 1F
特定非営利活動法人 ケアット
電話 078-453-3624 FAX078-453-3634
<http://caret-npo.org/>

アートに出会う移動教室『ブルービーンズスクール』

特定非営利活動法人 ブルービーンズショア

1 団体概要

当法人は、キャンプディレクター佐島弘理氏の指導の下、過去25年間に渡り小豆島の海岸のキャンプ場で、「感情を育てる」ことを理念とし子ども達に対する教育キャンプを行なってきた。10年前からは本州でも季節毎のデイキャンプやクリスマスのワンナイトキャンプなど、様々なフィールドでキャンプを行なうようになり、その活動が認められ平成16年にNPO法人に認可される事となった。また私たちの活動の企画・運営のほとんどを関西一円から集まった約40名の大学生リーダー達が行なっており、彼らの指導育成も合わせて行なっている。アートワークショップは昨年度、教育大学や芸術大学に在学する学生を中心に新たに始まった試みである。

2 助成事業の概要

当法人の会員と、地域の子どもたちを対象に、「こそあどアート」と名付けシリーズ化したアートワークショップを行った。特に2月・3月分は、内容を関連づけ、続けて参加してもらうように企画した。また「こそあどアート」のDMを作成し、県内の美術関係・教育関係の施設に配布したほか、地域情報紙に告知を掲載してもらうなどの広報活動も行った。

<第1回こそあどアート「手でみる 手でつくる」>

日時：2006年11月23日

場所：兵庫県立美術館王子分館「原田の森ギャラリー」

参加者：13名（内、新規会員2名）

概要：様々な触覚をイメージの源にし、それをさまざまな種類の紙で工夫して表現した。



<第2回こそあどアート「びじゅつかんで なにみえへる？」>

日時：2007年2月25日

場所：国立国際美術館（大阪市北区）

参加者：25名（内、新規会員7名）

概要：当法人と国立国際美術館（大阪市北区）の共催という形で、無料で会場を提供していただき、鑑賞ワークショップを行った。「色」というテーマに加え、作品の内容を子どもたちと自由に語り合うという「対話型鑑賞」を取り入れたプログラムとなった。具体派の白髪一雄氏の作品との出会いを、次回のワークショップにつなげた。



<第3回こそあどアート「いろんなかたち なにみえへる？」>

日 時：2007年3月24日

場 所：兵庫県立美術館王子分館「原田の森ギャラリー」

参加者：29名（内、新規会員8名）

概 要：第2回こそあどアートで作品鑑賞を行った続編として実技のワークショップを企画した。参加者の7割はこの2つのワークショップに続けて参加した。筆や鉛筆を使って描くのではなく、身近な日用品をそのかわりにして、作品づくりを行った。



今年度は、国立の美術館と連携して鑑賞のワークショップを行なう事ができ、事業が軌道に乗り始めた事を実感できた年であった。プログラムを行なうにあたっては、美術館の学芸員の方や美術教育を専門とする大学の方など多方面からおおいに支援していただき、その輪を広げる事ができた。また同時にアートワークショップを担当する大学生リーダーのトレーニングにも力を入れる事ができ、おかげで繰り返しアートワークショップに参加するリピーターも現れるなど、内容の充実を実感している。助成期間終了後も本事業を自立した活動として存続させるための基盤が整いつつあるといえよう。

参加者の保護者からは、「このような機会がないと子どもが美術館に来る事はないのでありがたい」「初めて来たが、建物のすばらしさに驚いた」等、美術館という場を知らせることの重要性を感じるような声が聞かれた。実際地域の美術館博物館というのは市民に活用されていない事が多く、本事業を通じて少しでもそれを改善していくことができればと思っている。

平成19年度は兵庫県立美術館と連携してワークショップを行なう事が決定しており、「地域に根ざしたアート教育を」という事業当初の目的に合致した展開が期待される。

助成金は、リーダーのトレーニングを目的とした講師への謝礼、またワークショップ開催にあたっての実費（会場費、材料費）、また大学生リーダーの交通費等に用いた。

3 今後の事業計画

平成19年度も3回のワークショップを予定している。

7月8日 兵庫県立美術館 / 11月18日 兵庫県立美術館 / 2月初旬 県内博物館

代表 佐島由紀子

〒666-0112 兵庫県川西市大和西5丁目24-8

TEL・FAX 072-794-3200

E-mail: npo-bbs@jttk.zaq.ne.jp

URL: <http://homepage3.nifty.com/blue-beans-shore/>

高齢者食事サービス事業

特定非営利活動法人 陽だまり

1 団体概要

私どもの団体は、「障がいのある人もない人も共に働く事業所」として篠山市に平成11年1月に設立しました。設立当初から、小規模作業所でありながら、障がいのある人もない人もスタッフ全員が、兵庫県の最低賃金で働き障害者スタッフとも、雇用契約を結び労働者として捉えてきました。事業内容は、喫茶店とお昼の弁当を地域の事業所や個人宅に宅配しています。他には、地域の特産を使った黒豆シフォンケーキ・クッキーなども手作りし、委託販売や学校関係・各施設に販売に出掛けております。平成18年度にNPO法人を取得し現在に至っております。

2 チャレンジした事業

昼の宅配弁当事業を始めて9年目になります。この間弁当の数の変動もありましたが、障がい者スタッフも仕事を体で覚える事もでき、全体を通しての仕事の流れができるようになり、弁当の注文においても数が安定してきました。

以前から、夕食の配達の要望や高齢者向きの弁当の相談を受けることが、多く、事業の拡大を計画しました。篠山市でも地域の高齢化が進み、独居老人が増えている現状があります。車なしでの買い物に出掛けることも大変です。体調が悪い時は、なおさら食事の準備も出来なくなります。高齢者にバランスのとれた食事を提供し地域での生活支援のお手伝いが出来ればと考え「高齢者食事サービス」事業を始めることになりました。

3 事業内容

夕食は、保温性のある容器を利用しごはん味噌汁はあったかいものを提供できるようにしました。調理方法・材料・盛り付けの面は、高齢者の嗜好に合うように又、家庭的な食事がお弁当でも味わえるように心がけ、1ヶ月の献立をカロリー計算して作成しております。



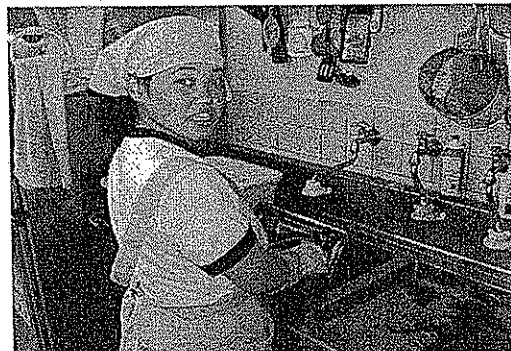
今回いただいた助成金で、夕方に勤務する養護学校の新卒生を1名雇用することができました。障がい者スタッフが増えたことにより、障がい者同士の仕事への取り組み方に変化が見られ、お互いに仕事を分担し助けあひながら仕事ができるようになりました。中間支援に入っていた「NPO法人 兵庫セルプ」さんには、チラシ作成や事業の紹介で各事業所回りは同行していただき、大変お世話になりました。

4 利用者さんの声にはげまされて・・・

障がい者スタッフが多数いる現状で、新しい事業のスタートとは、予想以上に大変でした。一日の仕事の流れをそれぞれの障がい者スタッフが覚えなければいけません、いままで出来ていたことが出来なくなってしまうたり・・・いろんなハプニングの連続でした。

でも、お弁当を利用されている方にとっては大切な食事で、届くのを楽しみにしておられます。「こんにちは、どうですか?」「今日は、ひざの痛みどうでしたか?」

難聴の方とは、下手な手話を交えながら、会話をしてお弁当を届けています。「ほんとにたすかるわ」「1つでいややいわんと、もってきてや」利用者さんの笑顔を見ると、届けてよかったと思います。また、離れている家族から安否確認の依頼が入ることもあります。障がい者スタッフも顔馴染みになり、毎日訪問するのを励みに頑張っています。



5 今後の事業展開

高齢者向きの弁当を基本におきながら、一般の方にも利用いただけるように、献立のバリエーションや個人のニーズに合わせたきめ細かい対応を心がけるように努力して行きたいと考えています。

高齢者の方は、自分でお弁当をとることを計画したり、予約したりが苦手です。家族の方やケアマネさんが間に入って紹介をしていただいたりしています。

個人情報保護の問題が壁になり、こちらの情報とお利用者の方の情報がうまく伝わらないこともあり、これからの課題だと考えます。

今後は、試食会や先進地視察などを取り入れ、食材費の引き下げ、サービスの向上にスタッフみんなで役割を持ちながら、努めていきたいと思っています。



特定非営利活動法人 陽だまり

理事長 森本 長壽

〒669-2203 兵庫県篠山市吹新117-4

Tel・fax 079-594-4112

